



(国土交通省ホームページより)



小笠原諸島における 海洋観光の可能性



(小笠原村観光局)



平成27年2月13日 小笠原村 企画政策室長 樋口 博

1. 小笠原諸島の概要 (1)位置・範囲



①小笠原諸島

- ・日本の南東海域に位置
- ・日本最東端(南鳥島)
- ・日本最南端(沖ノ鳥島)
- ・日本一広い行政範囲

②位置

東京から

- ・父島 約 1,000km
- ・南鳥島 約 1,900km
- ・沖ノ鳥島 約 1,700km

父島から

- ・母島 約 50km
- ・西之島 約 130km
- ・硫黄島 約 280km
- ・南鳥島 約 1,200km
- ・沖ノ鳥島 約 1,000km

③拠点の島

住民は父島・母島に居住

- 人口
- ・父島 2,100人
 - ・母島 500人

1. 小笠原諸島の概要 (2) 交通アクセス



① 交通アクセス

航路のみ

- ・東京⇄父島間
- ・約6日に1便

(片道 25時間30分)

《運航形態》

1日目 10:00 東京発

2日目 11:30 父島着

3日目 父島 停泊

4日目 父島 停泊

5日目 14:00 父島発

6日目 15:30 東京着

② 定期船「おがさわら丸」

運航⇒小笠原海運(株)

《主要目》

総トン数：6,700トン

全 長：131m

航海速度：22.5ノット

(時速 約42km)

営業定員：769名

1. 小笠原諸島の概要 (3) 政策方針

- 〔現状〕 ○観光業が小笠原村の産業の柱
 ○豊かな自然環境が観光資源（平成23年6月 世界自然遺産登録）
 ○年間の入込客数は、約3万3千人（H25 定期船・クルーズ船）
 （近年、教育旅行の誘致にも注力）



〔方針〕 エコツーリズムを基軸とした観光の推進

観光政策

〔参考〕	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入込客数	19,341人	19,062人	26,905人	27,785人	24,616人
教育旅行	10校	20校	19校	25校	17校
	317人	780人	909人	1,061人	1,179人
クルーズ船	5隻	2隻	14隻	32隻	26隻
	2,044人	658人	5,646人	11,900人	8,444人

海洋政策

沖ノ鳥島、南鳥島を含め、小笠原諸島が、我が国の領土保全や海洋資源開発などの太平洋上の拠点としての役割を担うべく、国の海洋政策に積極的に協力し、国益に貢献する

2. 各島の概要 (1) 西之島、硫黄島

西之島	北硫黄島	硫黄島	南硫黄島
 <p>(海上保安庁ホームページより)</p>			
<p>自然環境保全の島</p>	<p>自然環境保全の島</p>	<p>平和の象徴の島</p>	<p>自然環境保全の島</p>
<p>世界自然遺産区域 国立公園区域 特別保護地区 鳥獣保護区</p>	<p>世界自然遺産区域 国立公園区域 特別保護地区 鳥獣保護区</p>	<p>慰霊事業(国・都・村) 遺骨帰還事業(国・村)</p>	<p>世界自然遺産区域 原生自然保全区域 天然記念物(国)</p>
<p>上陸は困難</p>	<p>上陸は困難</p>	<p>上陸は困難</p>	<p>上陸は困難</p>
<p>人は居住していない 現在、噴火活動中</p>	<p>人は居住していない 戦前は約90人居住</p>	<p>住民はいないが、 自衛隊・建設会社の 約500人が常駐。 戦前は約1,200人 が居住</p>	<p>人は居住していない</p>

2. 各島の概要 (2) 沖ノ鳥島、南鳥島

沖ノ鳥島



(国土交通省ホームページより)

日本の最南端
〒100-2100 東京都
小笠原村沖ノ鳥島
(北小島⇒1番地)
(東小島⇒2番地)

南鳥島



日本の最東端
〒100-2100 東京都
小笠原村南鳥島

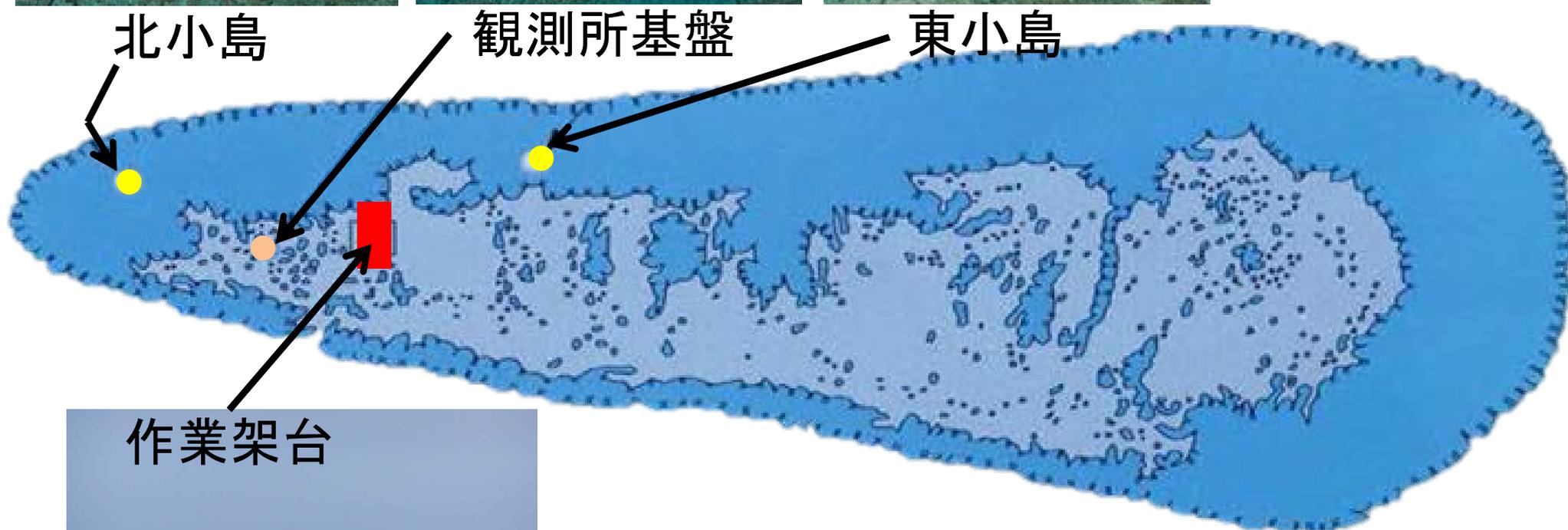
国が直接管理する島

- ・土地の所有者は国
- ・低潮線保全法による管理
⇒「特定離島」に指定
低潮線保全区域の設定(14か所)
特定離島港湾施設の整備

国が直接管理する島

- ・土地の所有者は国
- ・低潮線保全法による管理
⇒「特定離島」に指定
低潮線保全区域の設定(5か所)
特定離島港湾施設の整備
- ・鳥獣保護区
- ・明治30年代から開拓住民数十名いたが、昭和10年頃、無人島となる
- ・現在は、海上自衛隊 約10名
気象庁 約10名
国土交通省 3名 が在住

3. 沖ノ鳥島の状況 (1)島の全体図



*この図は、国土交通省発行のパンフレット「沖ノ鳥島の保全」に掲載されている図を加工して作成したもので、写真は作業架台を除き同パンフレットから転用したものです。

3. 沖ノ鳥島の状況 (2) 観光資源

風景



(国土交通省ホームページより)

全景



環礁内(東小島)



夕日

生き物



(国土交通省発行パンフレットより)

サンゴ



環礁内の魚群



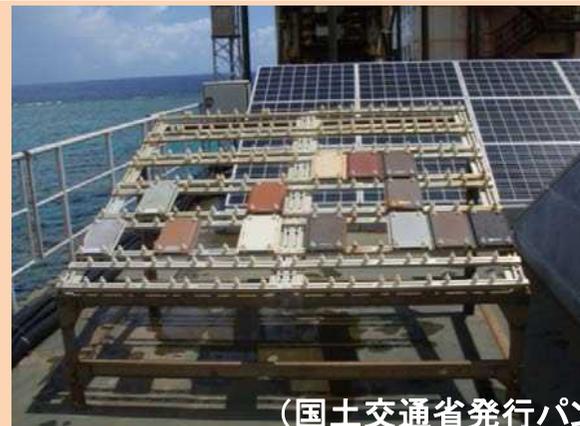
周辺で獲れる回遊魚



その他

[観測、調査、研究、開発に係る国策]

- ・灯台(作業架台上の旧宿舎屋上)
- ・電子基準点(東小島)
- ・気象・海象観測装置
- ・新素材開発の試験



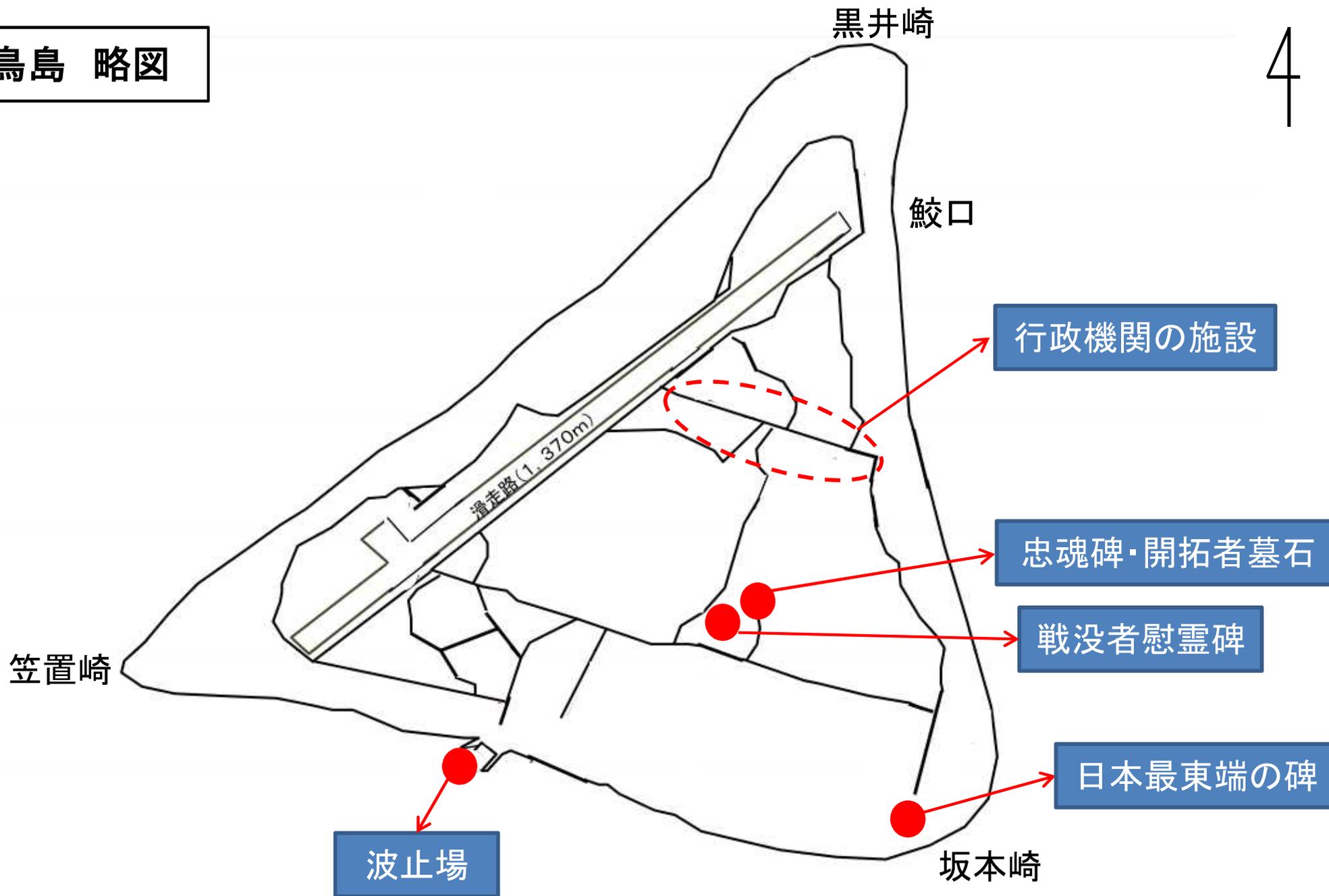
(国土交通省発行パンフレットより)



3. 南鳥島の状況 (1)島の全体図

南鳥島 略図

4



3. 南鳥島の状況 (2) 観光資源

風景



島の様子*



海岸*



道



夕焼け*

動物 植物



キハダマグロ*

(*印の写真は
元南鳥島勤務自衛隊員
による撮影)



魚の群れ



アカオネツタイチョウ*



セグロアジサシ



陸やどかり*



ハカラメ*



サボテン*

3. 南鳥島の状況 (2) 観光資源

戦跡



戦車



大砲



トーチカ



行政機関



発電所



米海岸ガード跡地



低潮線保全
区域の案内

その他



開拓者墓石



旧日本兵忠魂碑



戦没者慰霊碑



手作り・いろいろ



4. 訪島事業・ツアー (1) 西之島

西之島視察会 (中止)

実施主体	小笠原村
実施目的	視察(行政区域)、教育(国土、自然)
参加対象	一般村民 (年齢不問)
募集人数	約300人
参加人数	村民 412名 スタッフ 11名(医師・看護師含む)
実施日程	平成26年6月28日 (日帰り) 9:00 父島出発 13:00 西之島着(島を周回、見学) 14:00 西之島発 18:00 父島着
実施方法	・定期船をチャーター ・西之島を周回し、船上から視察



(以上の写真は、海上保安庁ホームページより)

4. 訪島事業・ツアー (1)西之島

クルーズ船の寄航

○平成26年3月16日～17日

「ぱしふいっくびいなす」 父島入港
(神戸⇄父島)

○低気圧の影響で

17日17:00父島出港予定を繰り上げ出航
神戸に帰る途中、西之島に寄航

○西之島の東側沖合い約3km付近に停泊
噴火の様子を観察



(本頁の写真は、すべて
小笠原村観光局職員が撮影)

4. 訪島事業・ツアー (2) 硫黄島

	硫黄島訪島事業	硫黄島3島クルーズ
実施主体	小笠原村	小笠原海運(株)
実施目的	旧島民の墓参・慰霊巡拝	島の見学・バードウォッチング
回数・時期	年1回 ・ 6月中旬	年1回 ・ 7月初旬
参加対象	①硫黄島の旧島民関係者 ②中学2年生(全員) ③村民(希望者・抽選)	①一般希望者 (内地在住者・村民)
参加人数	約150名	約140名
実施行程	3泊4日	1泊2日
実施方法	定期船をチャーターし訪島 沖合に停泊し、通船にて上陸。 宿泊は船中。	自社の定期船おがさわら丸に より、父島から北硫黄島・硫 黄島・南硫黄島を周回し、父 島に帰港。 各島に上陸はしない。

5. 沖ノ鳥島視察ツアー（1）概要

実施主体	小笠原諸島返還45周年事業実行委員会（記念事業）
実施目的	① 視察（行政区域内） ② 教育（領土・海洋の視点での島の存在意義など）
実施日程	平成25年10月25日～27日 * 2泊3日、約50時間の船旅 ⇒ 台風の影響のため中止 平成26年5月9日～11日（再チャレンジ） ⇒ 港湾工事事故のため中止
実施方法	・ 定期船をチャーター ・ 父島から出港し、沖ノ鳥島を周回（2周）して父島に帰港
参加対象	村民に限定（中学生以上） * 内地行政関係者を招待。報道関係者はお断り。
募集人数	150名程度
参加人数	206名 村民 143名（中学生11名） 招待者28名 スタッフ 35名（医師・看護師含む）

5. 沖ノ鳥島視察ツアー (2) ツアー行程

10月25日

16:00 父島出発

20:00 星空観察会

10月26日

9:00 講演会「沖ノ鳥島の国家的役割」(第1回)

10:30 講演会「沖ノ鳥島の国家的役割」(第2回)

15:30 沖ノ鳥島到着

視察(船上)

* 環礁の外を左回りで2周

17:20 沖ノ鳥島出発

20:00 星空観察会

10月27日

10:00 クジラ・イルカに関する報告会(地元団体)

17:10 父島到着(ツアー解散)

5. 沖ノ鳥島視察ツアー（3）催し物

島の視察	送迎デッキ(左舷側のみ)から視察 ・安全確保のため、前後2列で視察スペースを確保 →デッキの長さからツアー参加人数の限度を算出
講演会	演題 「沖ノ鳥島の国家的役割」 講師 東海大学 海洋学部 山田吉彦教授
報告会	クジラ・イルカ調査に関する報告 小笠原ホエールウォッチング協会の職員
星空観察会	満天の夜空に輝く星を観ながら、星座にまつわるエピソード を交え、スタッフ(役場職員他)が解説
展示会	東京都作製の 模型(島全体・小島) パネル(EEZほか) を展示
その他	ビデオ放映(東京都作製のDVD沖ノ鳥島シリーズ) 船内写真コンテスト



6. 海洋観光の可能性 ～沖ノ鳥島・南鳥島～

外洋の遠隔離島における海洋観光を成立させるために

1. 認知

・名前は聞いたことがある。でも、よく知らない島 ⇒ 情報発信

〔情報発信〕

- ①常時発信 SNS.....（小笠原村ホームページでも発信強化）
- ②随時発信 イベント、広報.....

〔体験〕

- ①体験ツアー・クルーズ（モニタリング）
- ②領土・海洋・観光等の専門家、報道関係者の視察（生情報の発信）

6. 海洋観光の可能性 ～沖ノ鳥島・南鳥島～

2. 手段(海上交通)

・時間と費用がかかる ⇒ 船に乗ることが目的となる工夫が必要

[船] ①大型フェリー・クルーズ船の利用(外国籍のクルーズ船含め)

②寄航地としての利用

・沖ノ鳥島 ⇒ グアム方面経由のルート

・南鳥島 ⇒ ハワイ方面経由のルート

3. 目的(観光資源)

・上陸できるか否かは満足感に影響 ⇒ 短期的には、船上観光
長期的に、上陸の検討

[観光資源]

①ありのままのすべてが観光資源

②ありのままでの見せ方(魅せる)の工夫が必要

ご静聴ありがとうございました



(父島・二見湾にて停泊中の『飛鳥Ⅱ』)



おがじろう